

H30学力向上アクションプラン(日出町)

目標及び指標

- 【目標】
1. 「新大分スタンダード」に基づく授業改善の徹底
 2. 基礎基本の徹底(低学力層の底上げ)
 3. 活学力の向上

達成指標

取組指標

町内全ての小中学校が、「授業改善の5点セット」の検証指標を達成する。

- ・全教職員は、互見授業、研究授業等で取組指標に基づいた授業を行う。
- ・管理職は、互見授業等の参観した授業では取組指標に関する指導・助言を授業者に行う。
- ・各校は、「授業改善の5点セット」の中間検証を短期で行う。(5月、7月、12月、2月)
- ・指導主事が参加する年2回の校内研究会で、「授業改善の5点セット」の取組指標と検証指標の中間報告を求め、指導・助言する。

日出町標準学力テストにおいて、正答率60%未満の児童・生徒の割合小学校20%以下、中学校は30%以下にする。

- ・全教員は、評価規準を具体的に設定し、評価規準に達しない児童生徒への手立てのある授業を毎時間行う。
- ・各小学校は、月1回以上補充学習を実施する。
- ・各中学校は、朝学習や放課後を利用して補充学習の実施家庭学習の充実。(数学データベースの活用)
- ・単元末のテストで、小学校は各校ごとに、中学校は実施教科ごとに目標値を設定し、低学力層の減少に向けた改善を行う。

日出町標準学力テストにおいて「活用」の平均正答率が、全小中学校の全教科で全国平均を超える。

- ・各校で全教員が全国学力学習状況調査問題を解く校内研修を実施する。
- ・各校で全国学力学習状況調査及び大分県学力定着状況調査の結果を分析する。
- ・全教員は、学力向上支援教員及び習熟度別指導推進教員の公開授業に1回以上参加する。
- ・各学校は、朝自習や補充学習等で活用問題に取り組む機会をつくる。また、教員は授業において、単元に一回以上は説明する場を設けたり、思考ツールを積極的に活用したりする。

行動計画

- ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について
 - ・「授業改善の5点セット」を活用した研究授業、互見授業による授業改善を研究主任、教務主任、指導教諭を中心として行う。
 - ・短期の検証(年3回程度)を行い、取組の不十分などを見直し改善につなげる。
 - ・互見授業を年2回以上実施し、観察シートに基づく管理職からの指導・助言や学年部会等での話し合いをもとに、日頃の授業実践に活かす。
 - ・授業のねらいの明確化と評価規準を具体的に設定し、個に応じた適切な支援を行う。
 - ・学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員による「新大分スタンダード」を踏まえた公開授業の実施。
 - ・習熟度別指導を学校の実態にあわせて算数、数学、英語で行う。
 - ・朝学習や放課後を利用した補充学習の実施。
 - ・夏季休業中にステップアップ講座(小)学習相談(中)を実施。
- ②「中学校学力向上3つの提言」に関して
 - 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
 - ・日出中では教科担任のタテ持ちを継続する。
 - ・大神中学校に理科の学力向上支援教員を配置し、低学力層の底上げに向けた授業改善を推進する。また大神小学校5、6年の理科も担当し、小中連携による授業改善を推進する。引き続き大神小学校の教務主任等と連携し小中の接続を意識した教育課程の改善を図る。
 - ・教科部会(日出町研究協議会)での授業研究を実施し、授業改善に向けた取組を推進する。
 - 「生徒と共に創る授業」の推進について
 - ・学校が目指している授業像を生徒と共有する。
 - ・生徒による授業評価を各単元ごとに実施し、それを授業改善に反映する。
 - ・小中学校間の交流を積極的に行い、小中の円滑な接続を推進する。
- ③新学習指導要領の実施に関して
 - 授業に関して以下の2点について、校内研究授業等において指導、助言を行う。
 - ・生徒指導の三機能を意識した学習形態の工夫
目的を明確にしたペアやグループによる対話的学習の場の工夫と効果的な活用。
 - ・児童生徒の主体的な学びを促す課題の設定と問題解決的な展開の授業。
 - 各教科部会(日出町研究協議会)における研究授業や授業実践の交流。
 - 小学校英語活動について
 - ・3、4年生 計15時間、5、6年生 計50時間実施。
 - ・小学校にALT1名配置し、T・Tによる指導を行う。
 - ・外国語部会(日出町研究協議会)における研究授業の実施。(指導主事招聘)
 - ・学習ボランティアとして、英語に堪能な地域人材の活用。